社会医療法人近森会
ひろっぱ 9
Vol.326
発行 2013年8月25日
www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1－16 〒780-8522 tel. 088－822－5231 発行者 ● 近森正幸 ／ 事務局 ● 川添昇

「放課後等デイサービスKul」を開所

社会福祉法人ファミーユ高知
高知ハビリテーリングセンター
センター長　上田 真弓

障害児支援として

平成24年度4月1日より児童福祉法の一部改正が施行され、18歳以上の障害者支援施設においても障害児支援事業が開所できることになりました。そこで、ハビリは、今年4月1日より「放課後等デイサービスKul（キュール）」を開所しました。

放課後等デイサービスとは、学齢期の障害児支援として放課後もしくは春、夏、冬休み等の長期休暇中の障害児の居場所を提供するものです。これは、高知県内の障害児数に対して充足していないという現状があり、高知県及び高知市からもこの事業の開所については強く求められてきたもののひとつでした。

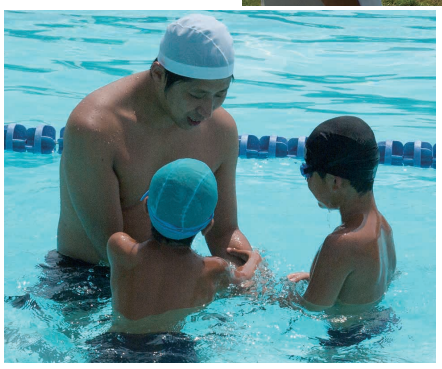
事業開始に至った経緯

もちろん、私たちも平成20年4月1日に高知ハビリテーリングセンターを開設して以来、18歳までの療育や支援体制、保護者支援が重要であることを確信してきました。また、学校や保護者への聞き取りを行う中で、障害児支援における深刻な悩みや課題の多さを痛感させられ、一方でハビリでは何ができるかを考えざるを得ませんでした。そうして、現在の設備や職員配置を検討し、放課後等デイサービス事業の開始に至ったわけです。

丑之助学園の園児たちがよさこい踊りを披露した

楽しく、メリットを活かして

Kulは、スウェーデン語で「楽しい」という意味です。児童が楽しいと思えることはもちろんのこと、元気で明るい気持ちになれる居場所となることを目指しています。そして、ハビリならではのメリットを活かし、他の事業所にはない「売り」を考えています。市街地から離れた場所にあるからこそできることも、じつはたくさんあるのです。



二種類のプールでおもいっきり遊ぶ子どもたち
左は水着姿で子どもの相手をする川添荘平事務長

例えば、屋外では、広い芝生の上でボール遊びや鬼ごっこができますし、Kul専用で直径3.3mの大きな簡易式プールも設置して水遊びの場を作ることも可能です。隣接する県立障害者スポーツセンターの体育館やプールが利用できますし、屋外活動をする際にも車道が近くにはないので安全です。

山や田んぼが近く、自然に恵まれてもいますので空気はとてもきれいですし、鳥や虫の声が聴こえてきて、季節を身近に感じることもできます。

Kulならではの強み

Kulの部屋は、大正町の檜フローリングにしていますので香りがよく、家具は明るい色づかいで、スウェーデンを意識したモノ選びをしました。少し高めに設置している畳ボックスは、可動式ですので用途に応じて並び替えが可能です。

また、ハビリは、多機能型の障害者支援施設や就労支援事業所であるため、看護師やセラピストの専門職が常駐していてKulに関わることが可能です。管理栄養士がメニューを考え、健康に配慮した手作りおやつを提供しています。

児童は、いろいろな学校から来ていますので、送迎場所もマチマチですからKulの専任スタッフだけでは送迎が不可能なため、運転手のみならずソー

シャルワーカーや他部署の支援員も手伝います。

放課後は、学校へお迎えに行き、自宅へお送り。長期休暇中は、自宅への送迎をします。祝日や長期休暇中は、朝 7 時 30 分からの長時間のお預かりとなります。これは共働きの保護者の声にお応えしていますが、ハビリならではの開始時間であろうと思っています。

初めての夏休みは、定員は 10 名ですが 150% 利用が可能であったため、連日 15 名ほどの利用がありました。安全を第一に、プールには多めの職員を配置したため、今年はハビリの職員もかなり日焼けをしています。

夏休みをみんなで乗り切ろう

夏休みに利用した児童が Kul を気に入ってくれるか否か、保護者に Kul を認めてもらえたならば引き続き放課後の利用につながるのだと思うと、さらに慎重になり、緊張感を持ち、「とにかく初めての夏休みをみんなで頑張ろう」と、職員が一丸となって臨んでいました。その姿はとても頼もしいものでした。

協働姿勢は当たり前のことだと思われるかもしれませんが、まだまだ歴史の浅いハビリにとっては今後に活きてくる大切な機会となったように思います。

夏課題解決への新しい風

県立大学からは、ボランティアとしてたくさんの学生さんが来所して助けてくれました。これからを担う若き人たちが、ハビリの理念とするノーマライゼーション社会の実現に向けて、現実を知り、ともに頑張っていってくれるよう、そのための機会をどんどん提供していきたいと思っています。

障害児支援を始めたことで、これまでのハビリにはなかった児童の元気な姿や笑い声が響き、これが新しい風に繋がるかも知れないと確信しています。そしてその風は、法人内ばかりではなく、高知県内の障害児から障害者へと、支援課題の解決の方角に向かわなければなりません。そのためにも、ハビリはハビリとしての役割を、今後もしっかり果たしていきたいと考えています。

うえた　まゆみ

Kul 室内は大正町の檜の香りのするフローリングが気持ちいい。大きなテーブルでみんなで食事

9月の歳時記

日々草

近森リハビリテーション病院
2 階西病棟看護師長
梅木　まき

我が家の花壇では、日々草が小さな花を咲かせています。日々草はキョウチクトウ科ニチニチソウ属の一年草です。

日々草は夏に咲く花のイメージですが、晩秋まで花を咲かせます。次々に花を咲かせるので「日々草」と言われます。日照りや乾燥に強く育てやすいので我が家の花壇に毎年登場し殺風景な花壇に彩りを添えてくれています。

うめき　まき

絵・総務課
広報担当
公文幸子

気儘エッセー　4

野々宮のモデル・寺田寅彦

近森病院外科部長
田中（たなか）　洋輔（ようすけ）

夏目漱石の「三四郎」は多くの人に読まれた古典で批評対象にはなり得ないが、三四郎が田舎出 (福岡県) のぼんやりした東京帝大生としてうまく描かれているのに対し、美禰子が性格はうまく描かれているものの容姿が彷彿としないのは残念である。美禰子は三四郎を翻弄するが、それは自分の意志で生きようとしながら結局諦めて現実を選ばざるを得なかったこの時代の女性の振舞いとの解釈も成り立つ。

登場人物の一人、野々宮は三四郎の同郷の先輩との設定だが、実際は漱石の弟子であった高知出身の寺田寅彦がモデルである。物理の研究には極めて熱心だが、日常には恬淡としているように描かれている。

与次郎に金を貸したあと困った三四郎が国もとの母に送金を頼んだところ、母は野々宮に送金し、事情を調べたのち金を渡すよう依頼するが、三四郎が貰いに行くとあっさり金を渡す下りには土佐人の性格がよく出ている。また野々宮は妹のよし子に「美禰子さんのお言伝があってよ。うれしいでしょう」とからかわれ「かゆいような顔をした」と書かれている。最終章に、画家の原口が美禰子をモデルに描いた絵を皆で展覧会に見に行き、野々宮が“隠袋（かくし）から出てきた美禰子の（既に終わった）結婚披露の招待状を「引きちぎって床の上にすてた」”とある。

先頃、東京芸大美術館で開催された「夏目漱石の美術世界展」では、小説中のこの架空の絵が「原口画伯作≪森の女≫（推定試作：佐藤央育）」として展示されていた。

寅彦は東京で高知県士族の家に生まれ、4 ～ 8 歳、9 ～ 19 歳の時期を高知で過ごし熊本の五高に進学、五高で漱石の信奉者となり「物置でもいいから書生においてほしい」と頼み込むが、馬丁小屋を見て諦めたそうだ（漱石の熊本 5 番目の住居は旧居として残っている）。

五高でバイオリンを始め、後にチェロも弾いた。東京帝大に進み、若くして妻を亡くした寅彦のメランコリックな性格は漱石と波長が合い、漱石の家に出入りした。後に留学先のベルリンから漱石に送った葉書で「三四郎」を送って貰った礼を述べている（明治 42 年 7 月）。漱石が「どの分野に進んでも秀でる」と評した如く寅彦は多方面で活躍し、昭和 10 年骨転移にて 58 歳で死去した。

● 医療今昔物語 ● 神経内科 1

診療の基本は、日曜ドラマ「JIN ―仁」の世界と同じ

～病歴と診察所見が優先～

近森病院神経内科
主任部長　山﨑　正博

近代医学のあけぼのであった江戸幕末期の医療の歩みをたどって好評を博した、TBS の日曜テレビドラマ「JIN ―仁」の時代と、現代の神経内科診療はあまり大きく変わっていないと思います。

医療機器が発達していなかった今から 120 年前の当時は、患者の訴えをよく聴き、身体所見から診断をつけていく医療の基本が大切にされた時代です。いわば患者の生の情報を活かす能力が必要とされました。今の医療はどうでしょうか。検査優先になっていませんか。

神経内科医の診察道具は、いまだに打腱器と音叉など簡単な道具です。病歴とこの簡単な道具を使用して複雑多岐に亘る神経系に起こった疾病を神経内科医は診ているわけです。

歩き方ひとつからも麻痺性疾患が多い錐体路系疾患と、バランスの障害される小脳系疾患、運動のリズムと速度の障害されるパーキンソン病などの錐体外路系疾患をある程度鑑別していきます。ありとあらゆる検査を駆使して診断に迫る他科とは大きな違いがあります。

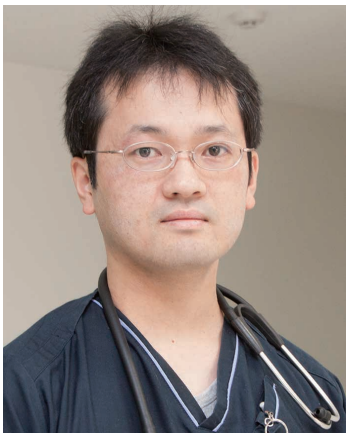
NHK TV で毎週放送されている「ドクター G」という番組がありますが、この番組のコンセプトは病歴と身体所見から正しい診断にどこまで迫れるかであり、検査漬けになっている現代医療へのひとつの警鐘ではないか、と考えています。

キリスト教の教会からの派遣医師として、アフリカ難民の診察にあたってきた後輩がいっていました。「神経内科診療は、打腱器と音叉から始まる」と。

やまさき　まさひろ

ハッスル研修医

近森病院に辿り着くまで



初期研修医　瀬戸口　隆彦

私は高校卒業後大学受験に失敗し、半ば自暴自棄になって「学歴社会に迎合したら負け」と言い残し、関東近辺で新聞配達などのアルバイトを 10 年近くしていましたが、年齢が 30 近くになって「特別な才能のない自分が大学を出なかったのは失敗だった」と気づき、大学に行って人生やり直そうと思いました。

そして、「医者なら今からでも間に合うかもしれない」と安易に医学部を考えていましたが、遊んでばかりで貯金がなかったため、受験費用がありませんでした。そこで、親に「金貸して」と泣きつき退職金から 600 万円ほど借り、仕事をやめて数年後なんとか医学部に合格しました。

大学入学後は奨学金を 1400 万円ほど借り、なんとかお情けで卒業させてもらいましたが、国家試験には落ち、翌年 36 歳にしてようやく合格しました。

このように自分に甘く無計画で自立心が無く、生活もだらしがなく、性格は根暗で運動音痴、学力もコミュニケーション力もない自分ですが、自然体でこれからもしぶとく頑張りたいと思います。

せとぐち　たかひこ

男もすなる日傘

近　森　正　幸

今年の夏は例年になく猛暑の日が続いている。暑いだけでなく気候が激しくなり、あちらこちらで集中豪雨や日照りが頻繁に起っている。「温暖化」を通り越して「灼熱化」とでもいいたくなる。暑さのせいか、今年は男の日傘がマスコミでもたびたびとり上げられているようだが、高知ではほとんど見かけない。

「男が日傘などをさして」などという声も聞こえてきそうだが、このカンカン照りのなかを汗だくで歩くより、男も日傘で日陰をつくって歩く方が、ずっと理にかなっているように思える。

なによりもこの直射日光は頭髪に良くない。髪は全身の臓器のなかでもっとも要らないものだから、ストレスなどがあると最初に犠牲になりやすい。頭皮の日焼けは髪にとってはかなりのダメージになる。なんとか保っている私の頭頂部の髪の毛をこれ以上過酷な状況に追いやるわけにはいかない。

帽子だとせっかく手入れして立てている髪がペシャンコになる。したがって「日傘」ということになる。妻に買ってきてもらった日傘は、晴れ雨兼用のパラソルで、UV カット、遮光、遮熱のすぐれものである。折りたたみなのでバッグにも入るし、どこにでも持っていける。

まあ、そんなわけで今年は日傘が手放せなくなった。使ってみるとこれがなかなか快適である。人の目やこれまでの常識に囚われるより、合理的に考える方がずっと楽でもある。

今年はデパートなどでも男用の日傘が豊富に売られている。来年といわず今からでもぜひ人目を気にせず、日傘をさしてみていただきたい。

理事長・ちかもり　まさゆき

前期医療安全研修会

患者・家族―医療者間のコミュニケーションとチーム STEPPS

医療安全委員会委員長
近森病院神経内科主任部長　山﨑　正博

▶職員に質問する
立教大学社会学部
大生定義教授

全職員必修の前期医療安全研修会に立教大学社会学部の大生定義教授をお招きして、チーム医療が身についている近森会職員間で、医療安全をさらに深化し進めるツールと戦略の方策であるチーム STEPPS についてたくさんの動画を提示しながらご紹介いただいた。今までにない対話形式を取り入れたご講演であり、緊張感の中にも和気藹々とした研修会であった。

チーム STEPPS の骨子は①チーム体制、②リーダーシップ、③状況モニター、④相互支援、⑤コミュニケーションから成り立つが、今後の近森病院の医療安全活動を強化していくなかでどこを補強していく必要があるか、示唆に富む研修内容であった。

やまさき　まさひろ

お知らせ　医療従事者対象

- **第 116 回地域医療講演会**
  「不足を補う漢方薬」
  日時：9 月 6 日（金）19:00 ～ 21:00
  会場：管理棟 3 階会議室 2
  講師：静仁会静内病院院長井齊偉矢先生
- **第 117 回地域医療講演会**
  「怖れを手放す～アティテューディナル・ヒーリング入門～」
  日時：9 月 13 日（金）18:00 ～ 20:15
  会場：管理棟 3 階会議室
  講師：アティテューディナル・ヒーリング・ジャパン代表
  対人関係療法専門クリニック院長、
  慶応義塾大学医学部非常勤講師
  （精神神経科）水島　広子　先生
- **第 118 回地域医療講演会**
  「　未定　」
  日時:10 月 2 日（水）18:00 ～ 19:30（仮）
  会場：管理棟 3 階会議室 2
  講師：岡山大学心臓血管外科助教
  増田善逸先生
- **第 119 回地域医療講演会**
  「地域医療とは何か？
  ー高知・アジア・ヒマラヤにおける
  フィールド老年医学の立場からー」
  日時：10 月 3 日（木）18:00 ～ 19:30
  会場：管理棟 3 階会議室 2
  講師：京都大学東南アジア研究所
  人間生態相関研究部門教授
  松林公蔵先生

メディカルスタッフ・ワークウエア 14　放射線科医師

モデル：清水和人医師

放射線科医は昨年の冬から、院内でスクラブに変える流れにのって新しくケーシーに変えた。色味は落ち着いた深いブルーを選んだ。

放射線科医は患者さんと直接関わることが少ないので、馴染みはあまりないかもしれない。彼らの仕事内容は、画像読影 (画像の専門的な解析)、IVR(血管内治療、低侵襲治療とも) である。

重篤な病気はほとんど CT や MRI で診断する時代、画像診断は治療方針の決定において重要な要素を占める。彼らは診療科の専門を超えた横断的な知識と経験で、検査依頼医と共同で診断を行う。

画像を駆使して、本の片隅にしか載っていないような病気も頭に入れ、幅広い病気を診断し、IVR で自ら治療にも参画するジェネラル・ラジオロジストを目指して日々研鑽している。

Chikamori ★ Kitchen 25　最終回

海の魚介のアボカドソース添え

臨床栄養部管理栄養士
主任　内山　里美
西森　瑞愛（みずえ）

内山里美　／　西森瑞愛

今回ご紹介するメニューは、サーモンとホタテのアボカドソース添えです。アボカドは食物繊維が豊富な上、抗酸化ビタミンであるビタミン E が多い優秀食材です。また、サーモンの赤い色のもとであるアスタキサンチンも強い抗酸化作用を持ち、アンチエイジング効果が期待できます。連載は今回で最後になりますが、Chikamori ☆ Kitchen は毎月開催しています。料理に興味がある方はぜひ一度のぞいてみてください。おいしい料理を一緒に楽しく作りましょう！

- ・サーモン (刺身用)　80g
- ・ほたて貝柱 (刺身用)　4 個
- ・セロリ　30g

A　レモン汁　小 1
　オリーブ油　小 1
　塩こしょう　少々
　ぽん酢　小 1

（アボカドソース）
　アボカド　1/2 個
B　ヨーグルト　40g
　塩こしょう　少々
　レモン汁　少々

＜作り方＞
①サーモンは 7mm の角切り。ほたては 7mm の角切り。セロリは筋を除いてみじん切り。
②ボウルにサーモン・ほたて・セロリ・A・みじん切りのパセリをあわせる。
③アボガドの種をとり、フォークでつぶしてなめらかにする。そこに B を入れて混ぜる。
④お皿にガーリックトーストをのせ、その上に②を山のように盛りつける。
⑤盛り付けた山のまわりにアボカドソースをかける。

看護部 キラリと光る看護 part2

看護部インターシップ（脳卒中コース）

近森病院脳卒中センター
SCU シニア看護師長　尾知 美穂

今回は「脳卒中看護を急性期から回復期まで、まるっと体験」をテーマに急性期の近森病院と回復期の近森リハビリテーション病院での看護が体験できるコースの紹介です。

このコースは、急性期から回復期そして在宅につなげる脳卒中看護を体験できるコースとなっています。

コースプログラムは、① SCU（脳卒中急性期における集中治療室）・回復期を半日ずつ体験できるコース、② SCU 中心コース、③回復期中心コースの３コースあり希望でコースを選択できるようになっています。

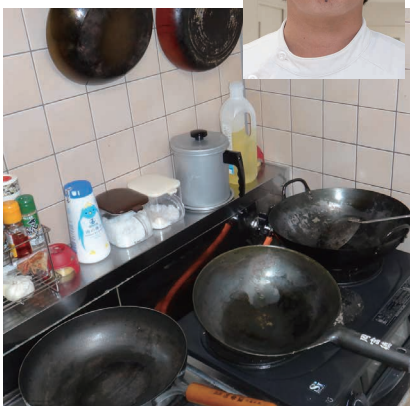
コースのポイントは、脳卒中看護を急性期と回復期でそれぞれの看護が体験できることです。急性期から回復期へと患者さんがどのように繋がってゆくのか、看護はどう連携していくのかも体験していただけます。また、急性期、回復期共に各専門職種が専門性を発揮し、チーム連携しながらチームアプローチを行っており“これぞチーム医療”という治療・看護を体験していただけると思います。

その他相談に応じて多職種での合同カンファレンスや回復期では入院時評価やビデオ嚥下造影検査などの見学もできます。　脳卒中看護に興味のある方は、ぜひ体験してみてください。大勢の方の参加をお待ちしています。

おち　みほ

私の趣味　「文津飯」!?

画像診断部
診療放射線技師
文野 孝浩



僕は、料理を作るのが好きです。釣ってきた魚や、プランターで栽培して収穫した野菜などを料理して、友達と食べるのが大好きです。

料理人は道具にもこだわるので、気付いたら魚を捌く包丁だけで三つ、中華鍋に関しては四つもあります。この中華鍋で作る天津飯は絶品で、友達からは天津飯ならぬ「文津飯」といわれ高い評価を受けています。今日はこの「文津飯」のレシピをこっそりお教えします。

まず熱々の中華鍋によく溶いた卵を三つ入れて半熟くらいまで焼きます。

お湯にウェイパー（鶏ガラ）、オイスターソース、砂糖、料理酒を入れて餡を作ります。餡を熱しながら水溶き片栗粉を入れ、とろみを付けます。

ご飯の上に全部のせたら完成です。

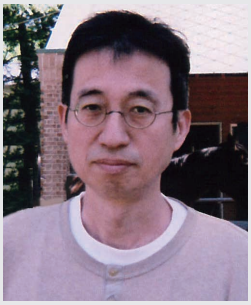
もしわからなければクックパッドをみてもらえればわかると思います。それでも無理ならうちにお越しください。今なら中国産ウーロン茶もサービスでお付けいたしますので。

ぶんの　たかひろ

院外エッセイ

「入院生活」という霊薬

堀内　恭



●ほりうち　やすし　1957 年、高知市生まれ。大学入学で上京し、大学卒業後、出版社勤務を経てフリー編集者に。コピーの家内工業小冊子「入谷コピー文庫」を 2005 年 5 月創刊、刊行中。『川谷拓三』『劇場潜入レポート』等掘り出し名著多数

黒澤明監督の映画『生きる』（1952 年）に主人公の志村喬が病院の待合室で患者から自分の胃癌のことを知らされる名場面がある。「医者がこう言ったら、間違いなく癌ですな」と囁かれ、医師からその通りのことを言われ愕然とするシーンが今も忘れられない。

昨春、大腸癌手術のため２週間入院した。大部屋だった。隣りのベッドに同じ大腸癌の患者さんがいて、手術前に手術の様子や、快復のため翌日から廊下を歩いた話などを聞けて少し安堵した。

以前、別の手術で入院したときにも、同じような手術をした患者さんが同室にいて、僕の手術の間、病室で不安な気持ちで待つ妻に優しい声をかけてくれて、妻がとても救われたということもあった。

出張中に盲腸を我慢し過ぎて、救急車で運ばれてきた若者、癌が再発して余命を宣告されている年配者、入退院を繰り返しながらも体力が落ちないようにと毎朝早くから手すりに掴まりながら廊下を一人歩く老人……そんな同室の患者さんと話したり、その直（ひた）向きな姿を見ていると、「戦友」という言葉をふと思い出した、ガラにもなく。病は違えども、病と闘う姿は皆同じ戦友ではないかと思える。

入院生活を送ると分かることだが、医師と接したり、会話をする機会は、ほんの少しの時間だ。あとは、伴走者ともいえる看護師さんとの会話、医療行為を中心にした患者同士の情報交換や互いの病状報告で一日が過ぎる。

今回、一人で入院し一人で退院していく患者さんが意外に多いことも知ったが、短い時間でも同じ時間に起き、同じ食事をし、同じ空気を吸い、グチも語るが健康への期待をも患者同士はよく語る。また黒澤映画ではないが、患者が医者よりも病気について知っていることもあると思う。

入院することは不幸なことには違いないが、悪いことばかりではないとも思う。アランが『幸福論』でこんなことを書いている。「期待をもつということ、これはまさに幸福である」。入院をして小さな期待を持てた人、持てない人と様々ではあろうが、入院生活は人生に不思議な効き目をもたらす「霊薬（れいやく）」のように思える。

第 112 回地域医療講演会

遠隔成績と手術侵襲からみた大動脈外科の現状と展望

◀名古屋大学医学部附属病院
心臓血管外科教授
碓氷章彦先生

近森病院
心臓血管外科部長　入江 博之

第 112 回目になる地域医療講演会の今回は、「遠隔成績と手術侵襲からみた大動脈外科手術の現状と今後」について、名古屋大学医学部附属病院心臓血管外科の碓氷章彦教授にお話ししていただきました。

あらかじめお願いしていましたとおり、心臓血管外科以外の医師、また、メディカルスタッフにもわかりやすい平易な言葉で詳細なお話をしてくださいました。

碓氷先生は、大動脈の手術、また最近著しく発展しておりますステントグラフトを用いた治療、さらにこれらを組み合わせた治療について、たいへん詳しく解説してくださいました。

名古屋大学では、心臓外科と血管外科が分かれていますが、このふたつがともにミーティングをし、手術も共同に行なって、「血管治療チーム」として活動されていることもとても新鮮でした。

このような成功例は、国内でも珍しいのではないかと思われます。

いりえ　ひろゆき

第 113 回地域医療講演会

致死性不整脈治療の update

▶杏林大学医学部付属病院
循環器内科准教授
副島京子先生

近森病院
循環器内科部長
深谷　眞彦

致死性の心室性不整脈に対して、ICD 植込治療が行なわれておりますが、不整脈発作が出現したときの救命を目的とするもので、予防には無効です。

発作出現時の状況によっては、救命できたとしても事故の危険性があります。予防目的の治療には、抗不整脈薬とカテーテル・アブレーションがありますが、完全な薬物治療はむつかしいので、致死性心室性不整脈のアブレーションも、積極的に行われる時代になっています。

杏林大学医学部付属病院循環器内科准教授の副島京子先生は、とくにこの領域では国際的に活躍しておられ、第一人者のおひとりです。今回、近森病院で心筋梗塞後の心室頻拍のアブレーションの指導をいただきましたが、高知大学や愛媛大学からも専門医が見学に来院されました。

そして、引き続きご講演もお願いしました。先生には ICD 関連の話題から心室頻拍の診断、複雑例のアブレーション、さらに心外膜側からのアブレーションといった最新の話題などを判りやすくお話しいただきました。

致死性の心室性不整脈もここまで治療できる時代になっていることを知って、聴講の皆さんにも好評でした。副島先生、ありがとうございました。

ふかたに　まさひこ

ワイン講座 ● 15

日本のワイン その1

ぶどう品種にこだわる

アルガブランカ・クラレーザ／勝沼醸造／山梨県甲州市勝沼町／ポテンシャルの高さから世界が注目している「甲州種」から生まれた極上のワイン。目隠しで飲むとコストパフォーマンスに優れている事が、きっと分ります。

いまから 8 年ほど前になりますが、これはと思う国産ワインに出会うことができました。ワイン会のたびに、そのワインを持参して、国産ワインとは告げずラベルも見せないで飲んでもらい、みんなから評価をいただきました。

その当時、国産ワインを好んで飲む方は稀で、ましてやレストランや居酒屋のメニューにオンリストされることなど、考えもできませんでした。

国産ワインといっても、外国から輸入されたぶどうジュースで造ったものや、外国産ワインとのブレンド、そして、食用のぶどうから造ったワインと名の付く甘い液体などでした。

長い間、食用ぶどう（ヴィティス・ラブルスカ）と考えられていた「甲州種」ですが、近年、ワイン用ぶどう（ヴィティス・ヴィニフェラ）と分り、注力する生産者も数多くなりました。

「日本のワイン発祥の地、勝沼で世界に通用するワインを造りたい。しかも、千年以上も前からこの地で栽培されてきた、日本固有の甲州葡萄を使って。それがスタッフ全員の夢です」

と語る勝沼醸造の有賀雄二社長。

目から鱗の甲州ワインの魅力の数々を、何回かに分けてご紹介させていただきます。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

※

今後の予定、その②畑にこだわる／その③樽にこだわる／その④熟成にこだわる／その⑤ 10 年先を見てのワイン造り

脳卒中連携の会●第23回合同会合

広がりを見せ始めた脳卒中連携

高知中央医療圏
脳卒中地域連携の会事務局
近森病院脳神経外科部長　高橋　潔

2013年7月28日、総合あんしんセンターで218名の参加を得て、「脳卒中連携の会」の23回目の合同会合を開催しました。

今回は前半に連携パスを用いて情報共有した症例を検討しました。在宅では病院や施設と異なる点、例えば「在宅では這ってトイレに行くことができる」と衝撃的な事実や認知症に伴うBPSDの問題など、いろいろな課題を提起していただきました。

後半では宮崎県立日南病院の木佐貫篤先生に多職種による「地域連携を推進するために」と題して、医療連携の過去から未来のあり方について多方面からの取り組みを紹介していただきました。会場からも活発な討議がありました。

▶宮崎県立日南病院
木佐貫篤先生

高知中央医療圏での脳卒中連携では、やっと病院間連携から地域に広がりを見せ始めた段階ですので、これからの活動に生かしていきたいと思います。次回の会合は今年12月に予定しています。

たかはし　きよし

第2回近森リハビリテーション病院オープンホスピタルの報告

色々な職業体験を通じて病院の仕事を理解して

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部部長　小笠原　正

平成25年7月20日（土）近森リハビリテーション病院にて、第2回近森リハビリテーション病院オープンホスピタルが開催されました。

この企画は昨年から、将来医療分野の職業を目指す学生に対し、病院見学や、色々な職業体験を通じて、病院での仕事を理解してもらうことを目的に始まりました。

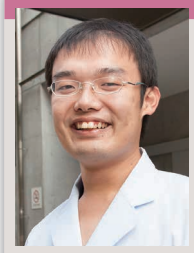
今年の参加者は、高校生や、看護をはじめとする専門学校、大学の学生27名で、昨年と比較すると少人数ではありましたが、その分スタッフもゆっくりと対応でき、参加者からはよい感想がありました。

ちなみに、体験コーナーには、高次脳機能障害の検査体験や、色々なクッションを使った座り心地体験、ベッド、車椅子の介助体験、嚥下食の試食や、嚥下内視鏡の仕組みを理解するコーナーなど、色々な企画があり、どのコーナーも大盛況でした。

おがさわら　ただし

リレーエッセイ

黒鯛を狙う



近森病院急性期CEチーム
臨床工学技士　山中　智弘

臆病なのに大胆、美しく優雅だが狡猾で獰猛、何でも食べる美食家。そんな魚が黒鯛です。

子供のとき、父親と釣りに行って臭い餌で小さな黒鯛を釣った記憶があります。一日頑張って一尾しか上がりませんでした。自分の釣った小さな黒鯛の塩焼きがとても美味しかったことは忘れられません。大人になってから、突如その味を思いだし食べたくなって黒鯛を狙うようになりました。

釣りに行くたびほかの魚は釣れるのですが、なかなか黒鯛は釣れません。隣の方は黒鯛を釣っているのに自分は一匹も釣れない、そんな日が何日も続きようやく自分も黒鯛を手にする日が来ました。黒鯛の引きは何とも言えない優雅さがありやり取りが自然と丁寧になります。タモに入った時の感動は今までの苦労を吹き飛ばしました。家に帰って刺身で食べたのですが子供の時ほどの感動はないのですが美味しく食べることができました。

黒鯛は一年中釣ることができ、いろいろな釣り方ができます。餌もエビや蚕の蛹、虫や小魚、変わったところではスイカやトマト、コーンなんかも食べます。今が旬の黒鯛をいろいろな釣り方で楽しんでいます。

やまなか　ともひろ

出張報告

マレーシア National Heart Institute 病院
日本との違いを感じて

近森病院心臓血管外科
後期研修医　田井　龍太

今年７月 22 ～ 26 日に岡山大学心臓血管外科教授の佐野俊二先生の出張手術に同行し、マレーシアへ行ってきました。

施設はクアラルンプール中心部にある INSTITUT JANTUNG NEGARA、英語名では National Heart Institute と呼ばれる、ベッド数 438 床、小児、成人合わせて年間 2,500 ～ 3,000 例と、多くの手術を行っている心臓専門の病院です。

日本との違いがいくつかありました。手術に関しては、道具や設備、グラフトの採取方法、人工心肺への乗せ方、離脱の仕方など、多くの異なる点を見ることができました。

また、コンサルタントと呼ばれるメイン部分を担当する医師と、フェローと呼ばれる開閉胸・助手を行う医師、アシスタントと呼ばれるグラフト採取などを専門で行う人で完全に分業されていました。こうすることで、１例目の手術途中から次の手術を開始でき、コンサルタントはメイン部分を終えてすぐ、次の手術のメイン部分を執刀でき、多くの手術が行えるシステムとなっていました。

病棟は個室の割合が多く、一部屋当たりの広さも日本に比べて広く、家族も寝泊まりしていました。市街地にあるにも関わらず、敷地面積は広大で、個室が多く確保されていることが驚きでした。

日本との大きな違いは宗教の影響です。マレーシアはイスラム教が主で、多くの女性は髪の毛を布で覆っていました。また、死生観に関しても宗教の影響がかなり大きいと感じました。加えて、今回訪問した期間はちょうどラマダーン（断食月）で、日中は飲食しないといった、宗教の影響を病院にいながら直接見ることもできました。

今回は初の海外施設見学であったこともあり、手術や施設だけでなく、文化、生活、宗教などあらゆる異なる点を見ることができ、とくに内容の濃い出張となりました。　　たい　りゅうた

乞！熱烈応援

施設管理、保守から

総務部施設用度課
課長　楠瀬　達也

施設用度課は建物や設備の保守、管理から、物品の購入管理、警備や患者搬送業務など数多くの業務を担っており、現場からのニーズに対してスピーディーな対応が求められます。患者さんや職員に迷惑が掛からないよう、フットワークが軽く、かつ各部署とのコミュニケーションを十分図り、信頼される部署にしていきたいと思います。また私自身も管理職として、まだまだ至らない点が多くあります。常に学ぶ姿勢を大切にし、自己研鑽を心掛けて参りますので、ご指導やご支援の程よろしくお願いいたします。　　くすのせ　たつや

就労支援部から居宅部へ

高知ハビリテーリングセンター
居宅部主任　福西　利孝

就労移行支援で利用者の方々と関わりを持てたのは、１年半程でした。近くも遠くもない、そんな寄り添う気持ちを忘れずに就労支援を心掛けてきましたが、気がつけば私自身の方が皆さんに力づけられ支えられていました。この得難い貴重な経験に感謝し、私たちの高知ハビリテーリングセンターから一人でも多くの方が一般就労できるよう、これからは別の形で支援を続けたいと思います。

すべては一からの出発となりますが、初心を忘れずに、これからも人間的に成長できるよう業務に専念していきます。

ふくにし　としたか

就労継続支援 B 型で

高知ハビリテーリングセンター
就労支援部主任　尾﨑　弘章

私は、就職して２年半就労移行科の方で、一般就労を目指す利用者さんの支援を行って参りました。

同じ就労支援部でも、就労継続支援 B 型という新しい科で、まだまだ慣れないことが多くて、スタッフには迷惑ばかりかけていますが、皆さんに助けていただきながらなんとか日々の業務をこなしているところです。

今後は就労移行科で得た知識と経験を活かしながら業務をこなしていければと考えています。ご指導のほどよろしくお願いします。

おさき　ひろあき

高知の夏、近森の夏

特集●第60回よさこい祭り

団結力で踊り抜きました

よさこい「ちかもり」実行委員会代表
診療支援部　奥田　興司

今年のよさこいは例年以上に熱気に包まれていました。日中の気温もアスファルトの照り返しで40℃以上！誰か踊り子が倒れるのでは!?　と本気で心配しておりましたが、なんとか全員無事に踊りきることができました。

また観客からの熱気（声援）が例年よりも多く感じ、観客の笑顔や拍手、声援、なかには一緒に歌うなど本当に愛されているチームに育ってきたと思います。なによりも他のチームにはない団結力が「高知家」ならぬ「近森家」として観ている人にも伝わっていると思います。これを活かし少しずつではありますが「ちかもり」のファンを増やして期待を裏切らないチームになればと願います。

最後に各部署の方には、長期間ご協力を頂きありがとうございました。この場を借りましてお礼申し上げます。今後も5回、10回と連続参加すると思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。では、また来年！　　おくだ　こうじ

夏祭り

近森オルソリハビリテーション病院で7月27日（土）、よさこい踊りや出店で「夏祭り」が催され、入院中の患者さんやご家族の方が楽しみました。

★★水難救助で表彰されました★★

感謝状

明神　早甫　様

あなたは平成二十年七月十七日
高知市長野町弘岡上で発生した
水難事故において心停止状態
の男児と同僚と共に一致協力
し心肺蘇生法を実施して蘇生
させ社会復帰に導いたその勇気
は誠に賞賛すべきものがあります
よってここに深く
感謝の意を表します

平成二十年八月十四日
高知市南消防署長
消防副士長　澤田　正彦

▲近森病院理学療法士の西原翔平さんと
◀近森リハビリテーション病院理学療法士の明神早甫さん

7月17日（水）午後4時頃、仁淀川で溺れて意識不明になった7歳の男児に、理学療法士の西原翔平さん（近森病院）と明神早甫さん（近森リハビリテーション病院）が救命処置を行い、蘇生させることができました。

ふたりは川で溺れて意識不明になった子供を家族が介抱している場面に遭遇し、状態が回復しないため、救急車が到着するまでもたせなければと、その一心で駆け寄りました。

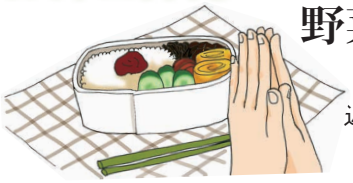
男児は多量の水を飲み、意識が無い状態でした。「気道確保、そして心臓マッサージ」、明神さんが気道確保と声掛け、西原さんは心臓マッサージを4分ほど続けた。西原さんは子どもの体格に合わせ指先を使ったマッサージを行う。空気を吸い込む呼吸音を確認しながら、ふたりはとにかく無我夢中だったといいます。

しばらくすると、男児が少量の水を吐き、続いて両掌いっぱいくらいの水を吐き、それから白かった皮膚も赤みが戻ってきて、3度目に多量の水を吐いたときに大きな泣き声をあげました。

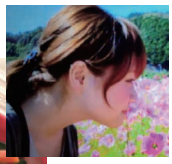
こんな経験をしてふたりは、近森会で熱心に行われているBLS講習の意義を痛感したそうです。病院に運ばれた男児は翌日には退院でき、名前を告げずにその場を立ち去ったふたりには、後日病院経由で問い合わせが入り、ふたりの行動が高知市南消防署から表彰されました。今後は様々な場面を想定して、子供の人形を使った訓練も出来れば、と思っているそうです。

お弁当拝見 17

野菜を多く使って



近森病院6階B病棟
看護師　伊藤　唯



県外で働いていたときもお弁当は作っていましたが、初めての県外生活ということもあり、3カ月程度で作るのを断念してしまいました。買うことは楽でしたが、お金がかかってしまうし、栄養のバランスも偏ってしまったため、高知に帰ってからはお弁当作りを続けようと決めていました。

お弁当は仕事の前日に作ることで朝早く起きなくていいようにして負担にならないようにし、また節約のために家にあるもので作り、なるべく野菜を多く使ってバランスを意識するようにもしています。ときどき母や姉が手伝ってくれることもあり、就職してから約1年ですが、お弁当作りを継続することができています。

これからも、頑張ってお弁当作りを続けていきたい！

いとう　ゆい

特別寄稿

再び脳梗塞で倒れて（上）

沼　敬

ぬま たかし。昭和22年高知市田渕町（現桜井町二丁目）生まれ。平成22年三菱商事（上海）有限公司上海万博担当就任、上海で脳梗塞発症後退職。現在近森リハビリテーション病院にて通院リハビリ中。

約3年前の平成22年10月下旬、常駐して居た上海で、自覚も無いまま突然脳梗塞に襲われ、担ぎ込まれた外国人専用病院で血栓溶解治療薬＜t-PA＞を投与され、事前同意をさせられて居た血管損傷こそ免れたものの、比較的重い右の片麻痺という後遺症が残った話は、「ひろっぱ」302～304号で詳しく書かせてもらいました。

9年前に心源性脳塞栓症で倒れた長嶋さんは、復帰に向かって、見る人が涙する程壮絶なリハビリに毎日取り組んで居り、「長嶋モデル」と言う呼び名で知られるその同じ短下肢装具ゲイトソルーションを、私も退院以来ずって着けて居ました。久し振りにTVで長嶋さんを見て、その杖無し歩行の姿に加え、装具は既に着用して居ないのではと、その回復ぶりをそっくり自分自身に置き換えたような感激に浸り、会心の笑みを浮かべていました。

倒れた後もリハビリ生活を送っていましたが、突然今まで経験した事の無い、激しい心臓の動悸と脈拍異常に襲われ、慌ててタクシーで近森病院に駆け込み、自ら受付に脳梗塞再発の可能性を訴えて救命救急センターで治療を受けることになりました。

その一週間前、夕食を一口食べた途端、鳩尾に持病の総胆管結石特有の激痛が走り、直ちに近森病院へ急行。可成り大きな石が十二指腸への出口「乳頭」部に出来て居るとの事。更に、その石を摘出するには出口切開処置が必要で、当然出血は免れぬ事から、脳梗塞再発防止用の血液抗凝固剤の服用を一時停止すると告げられ、服用停止に伴う脳梗塞発症のリスクを承知する旨の同意書にサインした上で、3日後に結石を無事摘出。術後の経過も順調で有った事から約1週間の服用停止を終え、血液抗凝固剤の服用を再開、12時間も経たない内に、結局また同じ病院に戻って仕舞いました。脳梗塞と総胆管結石の二つの病は、私にとって今後とも続くかも知れない、何か因縁めいた不思議な関係が有るのではないか？と感じて居ます。

救命救急センターのベッドで、右手に加え右脚先にもしびれ感が現れ、更に言語障害も出始めて居り、MRI検査の結果、左脳下部古傷の近くに小さな梗塞が認められた。間も無く北館SCU、一般病棟と移り、最後はリハビリテーション病院に転院しました。北館に移りリハビリが開始された頃から、逆に何かしらほっとし、再発した脳梗塞にしては、自分の想像よりもずっと軽症で済みました。　続く

人物ルポ 281 ● 高知ハビリテーリングセンター支援員／赤瀬健介さん

幸せオーラ まき散らし中！

相談承り中

思わず笑みがこぼれてしまう

瀬戸内海に浮かぶ周囲 53.5 キロの伯方島を古里に持つ赤瀬さんの、発想の原点にはいつも海があるようだ。水泳と魚釣りぐらいしか遊びがなかったような島で、肩肘張らないコミュニケーション力が自然に身についてきたのだろう。人と人との距離が近いその風土には、何ごとにつけ枠に嵌（は）めない鷹揚さがあったようだ。

ハビリ利用者の方々とのやりとりはごく自然だし、とりたてて何かを頑張っている風でもない。意識せずに呼吸をするように、自然体で業務をこなすし、接し方を考える前に自然に笑みがこぼれてしまうという感じなのだろう。

親の自覚が問われる時期が巡ってきた

だからということでもないが、社会福祉に関わる仕事をすると決めたきっかけも理由も妙に思い出せないという。幼い頃からの日々の過ごし方が、それほど自然に今の仕事に繋がったのである。

大学３年生のとき出逢った２年後輩のヨメさんは、地元愛が強く、したがって「県外には嫁に行かない！」はずだったが、赤瀬さんの生き方に寄り添う選択をしてくれた。地元愛よりも強い彼への想いが、広島を離れる決断をさせたのである。

「なんでいまの仕事を志したか、妙に思い出せないんです」と、ちょっと照れ笑い…

似た者同士だという二人は、楽天家で能天気。いかにもＯ型夫婦らしい大らかさで日々を楽しんでいるようだが、この７月に長男颯汰（そうた）くんが生まれた辺りから、少し様子が違ってきた。どんな環境でどんな風に育てていくか、親の自覚が問われる時期が巡っていると感じ始めているらしい。

幸せオーラをまき散らしてくれる人

が、とにかくまずは仕事上の技術を磨くことが先決である。もっとも、相手の望みを知る苦労なしに、肌に響くような直感が働くとでもいうのか、不思議な親しみやすさが彼にはあるようだ。上田真弓センター長はそんな彼を、「いつも楽しげに仕事をする幸せオーラをまき散らしてくれる人」だと見ている。目先の段取りを良くすることにとどまらず、大きな視点で、どうすればその人らしい社会復帰の近道になるかを考えるクセも次第に身についているようで、頼もしい。

しかもそういった情熱が、溢れるほどに押しつけがましくなく、むしろサラッとしているから、余計に清々しい若者と見えるのかも知れない。

障害者支援に手応えを感じつつ

利用者の皆さんとの関わりかた次第で、社会復帰の方向性が違ってくるという緊張感がある。ジョブコーチの資格を取得しており、今後障害者就労の分野にも活かしていきたい。

海と山しかなかったような古里だが、そんななかで育った幸運を意識するいま、息子をいつからそんな環境に包んであげられるか、夢は大きく広がるばかりだという。

障害とどう向き合うか、悩んだらキリのない難しさもあるが、相談には得意の直感力を働かせつつ、思わず笑みのこぼれるような彼の一日が過ぎていく。

Kul の子どもたちとプールでワクワク！

伯方島で大好きな鯛釣り！「ボクの腕では、これちょっと小さ過ぎるんですけど（笑）」

2013 年 7 月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,502 人
新入院患者数	821 人
退院患者数	793 人
近森病院	
平均在院日数	14.48 日
地域医療支援病院紹介率	86.64 %
救急車搬入件数	351 件
うち入院件数	169 件
手術件数	435 件
うち手術室実施	264 件
→うち全身麻酔件数	145 件

● 平成 25 年 7 月 県外出張件数 ●
件数 86 件延べ人数 163 人

編集室通信

はじめて夏季大学に出席した。内容は南海トラフ地震という巨大地震の正体を知るために震源域の海底に聴診器にあたる機械をおき、そこで起こる地殻変動を捉えて、コンピュータ京で津波の波力等をシミュレーションして、防災・減災に活かす内容であった。こういう研究が日本で行われていることはたいへん心強く感じる講演だった。(かつお)

図書室便り（2013 年 7 月受入分）

・体腔液細胞診カラーアトラス　診断へのアプローチ／北村隆司（他編）
・静脈経腸栄養ガイドライン：静脈・経腸栄養を適正に実施するためのガイドライン 第 3 版 ／日本静脈経腸栄養学会（編）
・近森栄養ケアマニュアル／近森正幸（監）、宮澤靖（編）
・近森栄養ケア Case Study ／近森正幸（監）、宮澤靖（編）
・リハビリテーション医学白書 2013 年版／リハビリテーション医学白書委員会（編）
・診療報酬 Q ＆ A2013 年版点数から保険制度までわかる 875 問／杉本恵申
・DPC 請求 NAVI2012-13 DPC コーディング＆請求の完全攻略マニュアル／須貝和則

《別冊・増刊号》・日本医師会雑誌第 142 巻特別号（1）生涯教育シリーズ 84 高血圧診療のすべて／苅尾七臣（編）
・別冊医学のあゆみ B 型肝炎ー最新治療コンセンサス／溝上雅史（編）
・臨床スポーツ医学 Vol.30 臨時増刊号 関節鏡視下手術と術後リハビリテーション／臨床スポーツ医学編集委員会（編）
・BRAIN NURSING 2013 年夏季増刊脳神経疾患病棟の看護技術ガイドブック／佐藤久美子 (監)

《視聴覚資料》・Audio-Visual Journal of JUA Vol.19 No.3 ／ 日本泌尿器科学会（監）